新潟県

平成19年11月９日
総務管理部統計課

平成18年社会生活基本調査　結果の概要

生活行動に関する結果
生活時間に関する結果

平成18年10月20日現在で実施した「平成18年社会生活基本調査」の結果（生活行動に関する結果：平成19年７月９日、生活時間に関する結果：平成19年９月28日）が、総務省統計局から公表されました。

これは、新潟県分の概要をとりまとめたものです。

なお、集計結果は、インターネットでもご覧いただけます。

県データはこちら◆◆ http://www. pref. niigata. jp/

全国データは総務省統計局◆◆ http://www. stat. go. jp/

新潟県　総務管理部　統計課

チュッピーちゃん

お問い合わせ先
新潟県 総務管理部 統計課 生活統計班 人口・教育担当
電　話　：　０２５－２８０－５１１８
ＦＡＸ　：　０２５－２８１－３８０６

目　　次

調査の概要、調査の内容・主な用語 ---------- 1

Ⅰ　生活行動に関する結果
1　インターネットの利用 ---------- 2
2　学習・研究 ---------- 3
3　スポーツ ---------- 4
4　趣味・娯楽 ---------- 5
5　ボランティア活動 ---------- 6
6　旅行・行楽 ---------- 7

Ⅱ　生活時間に関する結果
1　１日の生活時間の配分 ---------- 8
2　１次活動 ---------- 9
3　２次活動 ---------- 9
4　３次活動 ---------- 11

統　計　表

第１表　都道府県、インターネットの利用の種類別行動者率 ------ 14
第２表　都道府県、学習・研究の種類別行動者率 ---------- 15
第３表　都道府県、スポーツの種類別行動者率 ---------- 16
第４表　都道府県、趣味・娯楽の種類別行動者率 ---------- 18
第５表　都道府県、ボランティアの種類別行動者率 ---------- 21
第６表　都道府県、旅行・行楽の種類別行動者率 ---------- 22
第７表　都道府県、活動の種類別総平均時間（週全体） ---------- 23
第８表　男女、都道府県、行動の種類別総平均時間（週全体） ----- 24

注：この集計結果における構成比、割合は、四捨五入により算出してあるため総数（100%）と一致しない場合がある。

― 調 査 の 概 要 ―

平成18年社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、平成18年10月に実施した。

社会生活基本調査は、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施しており、今回の調査は7回目に当たる。

１　調査の対象

総務大臣が指定した119調査区（全国では約6,700調査区）の中から無作為に選定した1,428世帯（全国では約80,000世帯）に居住する10歳以上の世帯員を対象とした。

なお、調査結果のうち「行動者数」は、総務省統計局で算出した推定値である。

２　調査期日

調査は平成18年10月20日現在で行った。

ただし、生活時間については、10月14日から10月22日までの９日間のうち、調査区ごとに指定した連続する２日間について調査した。

― 調査の内容・主な用語 ―

Ⅰ　生活行動に関する事項

「インターネットの利用」、「学習・研究」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」、「ボランティア活動」及び「旅行・行楽」について、過去１年間（平成17年10月20日～平成18年10月19日）に、それぞれの種類別に活動を行ったか否か、行った場合は活動頻度などを調査した。

行動者数･･･過去１年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数

行動者率･･･行動者数の10歳以上人口に占める割合（%）

平均行動日数･･･行動者について平均した過去１年間の行動日数

Ⅱ　生活時間に関する事項

１日の行動を20種類に分類し、時間帯（15分単位）別の行動状況（同時に２種類以上の行動をした場合は、主なもの一つ）を調査した。

1次活動･･･睡眠、身の回りの用事、食事

2次活動･･･通勤・通学、仕事（収入を伴う仕事）、学業（学生が学校の授業やそれに関連しておこなう学習活動）、家事、介護・看護、育児、買い物

3次活動･･･移動（通勤・通学を除く）、趣味・娯楽、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ、学習・研究（学業以外）、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い、受診・療養、その他

Ⅰ　生活行動に関する結果

1　インターネットの利用

(1)　男性の53.4%、女性の47.3%が「インターネット」を利用

過去１年間（平成17年10月20日～平成18年10月19日。以下同じ。）に「インターネット」を利用した人（10歳以上。以下同じ。）は108万4千人で、行動者率は50.2%となっている。行動者率は、仕事や学業での利用も含めた平成13年と比較しても、12.6ポイント上昇している。

行動者率を男女別に見ると、男性は53.4%（利用者数55万7千人）、女性は47.3%（52万8千人）で、男性が6.1ポイント高くなっている。

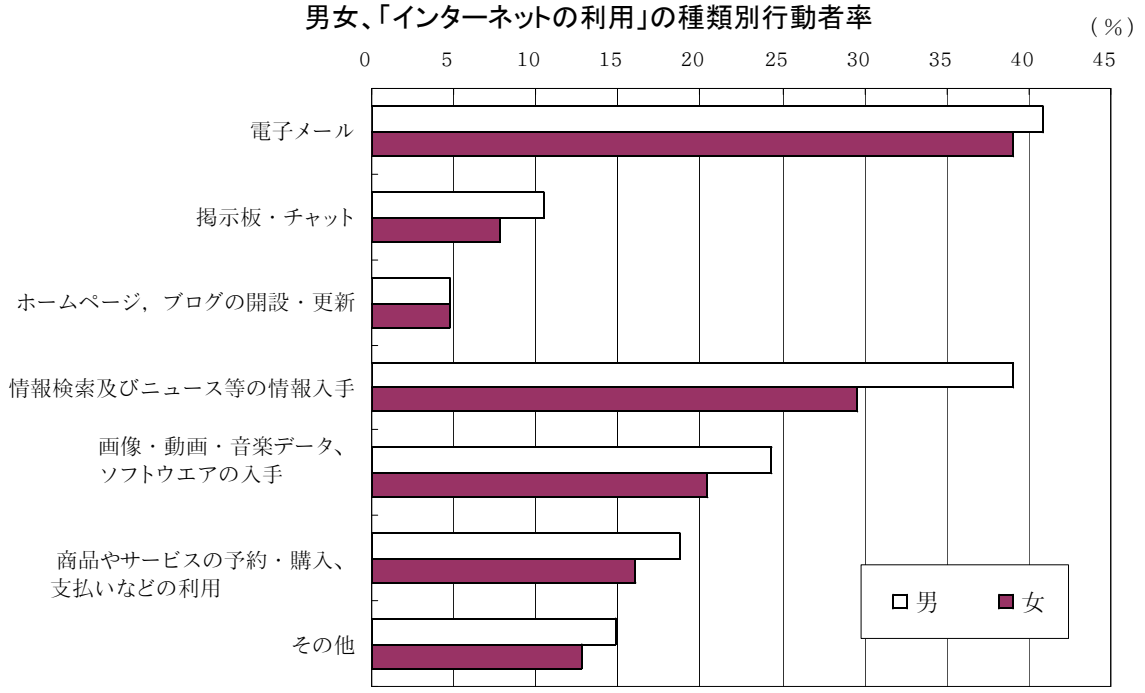
行動者率を全国と比較すると、男性は9.1ポイント、女性は9.2ポイント、それぞれ全国を下回っている。

なお、行動者率について全国順位をみると、34位となっている。

(2)　行動者率は「電子メール」が40.0%、「商品やサービスの予約・購入、支払いなどの利用」は17.3%

「インターネット利用」の種類別に行動者率をみると、「電子メール」が40.0%と最も高く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」が34.1%、「画像・動画・音楽データ、ソフトウエアの入手」が22.3%などとなっている。

男女、「インターネットの利用」の種類別行動者率



2　学習・研究

(1)　１年間に「学習・研究」※) を行った人は56万7千人、行動者率は26.2%

過去１年間に何らかの「学習・研究」を行った人は56万7千人で行動者率は26.2%となっている。行動者率を平成13年と比較すると、3.4ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は25.6%（行動者数26万7千人）、女性は26.9%（30万人）で、女性が1.3ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性が4.6ポイント、女性が2.1ポイント低下している。

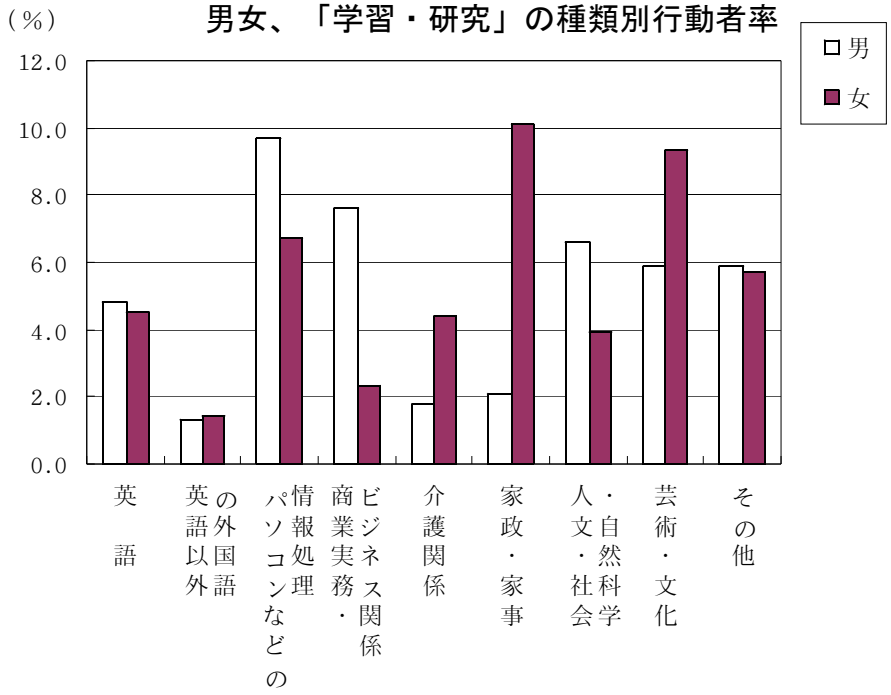
行動者率を全国と比較すると、男性は8.8ポイント、女性は9.1ポイント、それぞれ全国を下回っている。

なお、行動者率について全国順位をみると、45位となっている。

※)「学習・研究」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2)　「パソコン等の情報処理」は男性、「家政・家事」は女性が高い行動者率

「学習・研究」の行動者率をその種類別にみると、男性は、「パソコンなどの情報処理」が9.7%（行動者数10万1千人）と最も多く、次いで「商業実務・ビジネス関係」が7.6%（7万9千人）などとなっている。一方、女性は、「家政・家事」が10.1%（11万3千人）と最も多く、次いで「芸術・文化」が9.3%（10万4千人）などとなっている。



3　スポーツ

(1)　１年間に「スポーツ」を行った人は128万7千人、行動者率は59.6%

過去１年間に何らかの「スポーツ」を行った人は128万7千人で、行動者率は59.6%となっている。行動者率を平成13年と比較すると、5.1ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は65.3%（行動者数68万1千人）、女性は54.3%（60万6千人）で、男性が11.0ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は7.2ポイント、女性は3.2ポイント、それぞれ低下している。

行動者率を全国と比較すると、男性は5.1ポイント、女性は6.2ポイント、それぞれ全国を下回っている。

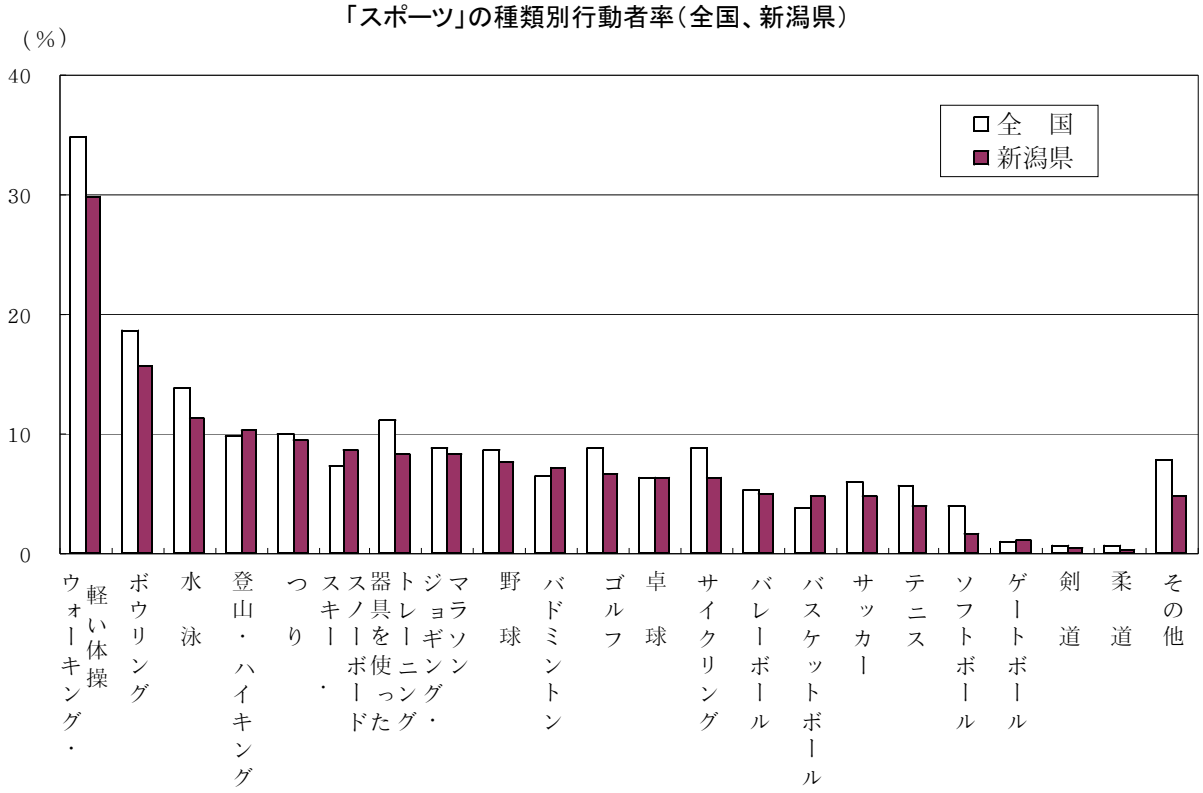
なお、行動者率について全国順位をみると、39位となっている。

(2)　他の都道府県と比べて高い「バスケットボール」、「バドミントン」の行動者率

「スポーツ」の行動者率をその種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が29.8%（行動者数64万4千人）と最も多く、次いで「ボウリング」が15.7%（33万9千人）、「水泳」11.4%（24万5千人）などとなっている。

行動者率について全国順位をみると、「バスケットボール」3位(4.9%)、「バドミントン」9位(7.2%)、「スキー・スノーボード」11位(8.6%)などとなっている。

「スポーツ」の種類別行動者率（全国、新潟県）



4　趣味・娯楽

(1)　１年間に「趣味・娯楽」を行った人は174万人、行動者率は80.5%

過去１年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は174万人で、行動者率は80.5%となっている。行動者率を平成13年と比較すると、1.2ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は81.8%（行動者数85万3千人）、女性は79.4%（88万6千人）で、男性が2.4ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は2.7ポイント低下しているが、女性は0.4ポイント高くなっている。

行動者率を全国と比較すると、男性は3.4ポイント、女性は5.2ポイント、それぞれ全国を下回っている。

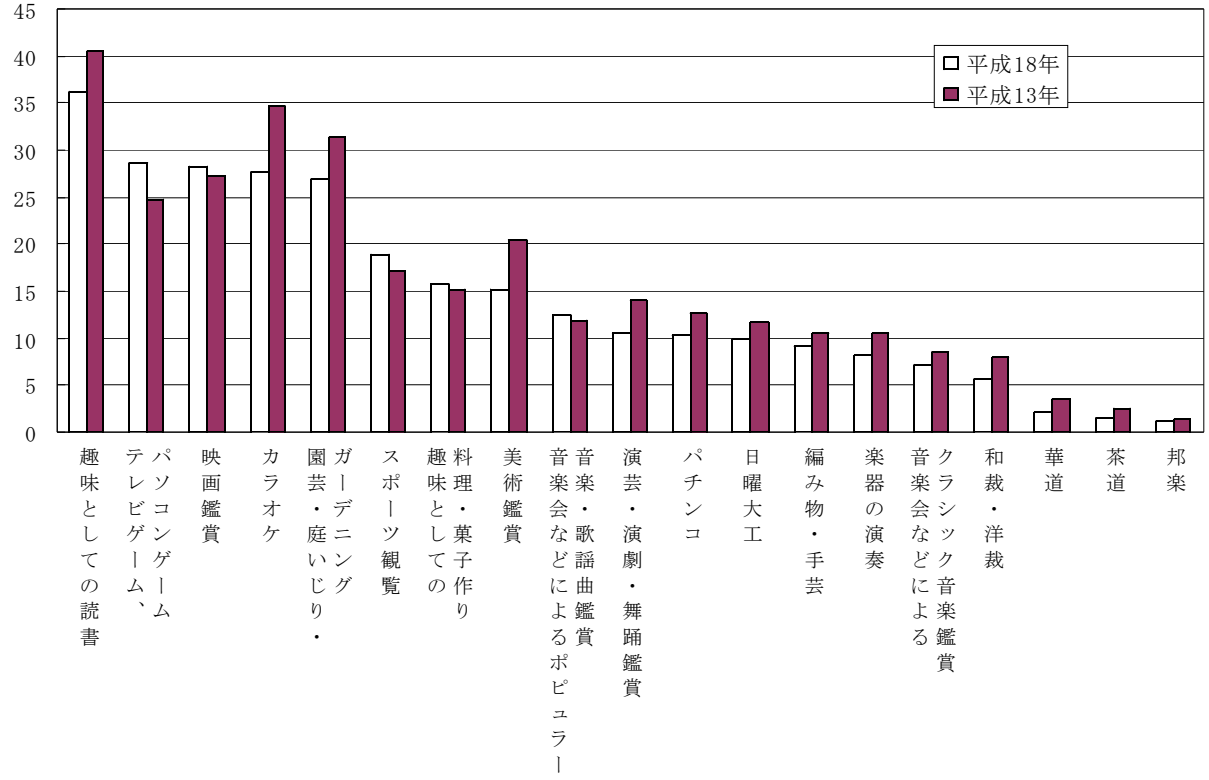
なお、行動者率について全国順位をみると、39位となっている。

(2)　行動者率が上昇したのは「テレビゲーム,パソコンゲーム」、「スポーツ観覧」など

平成13年と比較可能な「趣味・娯楽」の種類について行動者率をみると、行動者率が上昇したのは「テレビゲーム、パソコンゲーム」が3.9ポイント上昇、「スポーツ観覧」が1.7ポイント上昇、「映画鑑賞」が1.0ポイント上昇などとなっている。

逆に行動者率が低下したものは、「カラオケ」が7.0ポイント低下、「美術鑑賞」が5.2ポイント低下、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が4.5ポイント低下などとなっている。

「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成13年、18年）



注：平成13年と比較可能な種類を表章

「テレビゲーム、パソコンゲーム」の平成13年の調査項目名は「テレビゲーム」

５　ボランティア活動

(1)　１年間に「ボランティア活動」を行った人は53万8千人、行動者率は24.9%

過去１年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は53万8千人で、行動者率は24.9%となっている。行動者率を平成13年と比較すると、3.4ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は25.4%（行動者数26万5千人）、女性は24.4%（27万3千人）で、男性が女性より1.0ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は3.0ポイント、女性は3.9ポイントそれぞれ低下している。

行動者率を全国と比較すると、男性は0.3ポイント上回っているが、女性は2.8ポイント下回っている。

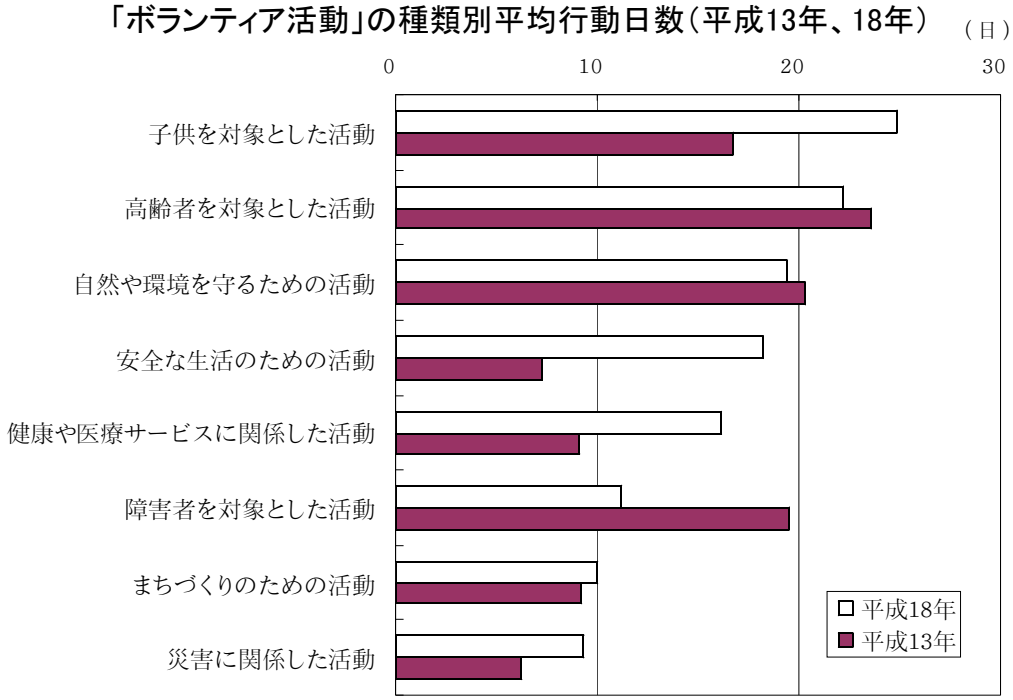
なお、行動者率の全国順位をみると、36位となっている。

(2)　平均行動日数は増加

平成13年と比較可能な「ボランティア活動」の平均行動日数は131.3日で平成13年より19.5日増加している。これを種類別にみると、平均行動日数が増加したものは、「安全な生活のための活動」(11日の増加)、「子供を対象とした活動」(8.2日の増加)などとなっている。

逆に平均行動日数が減少したものは「障害者を対象とした活動」(8.3日の減少)、「高齢者を対象とした活動」(1.4日の減少）などとなっている。

「ボランティア活動」の種類別平均行動日数（平成13年、18年）



注）平成13年と比較可能な種類を表章

６　旅行・行楽

(1)　１年間に「旅行・行楽」を行った人は160万7千人、行動者率は74.4%

過去１年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は160万7千人で行動者率は74.4%となっている。行動者率を平成13年と比較すると、4.4ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は72.3%（行動者数75万4千人）、女性は76.4%（85万3千人）で、女性が4.1ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は6.2ポイント、女性は2.6ポイント、それぞれ低下している。

行動者率を全国と比較すると、男性は2.4ポイント、女性は1.3ポイント、それぞれ全国を下回っている。

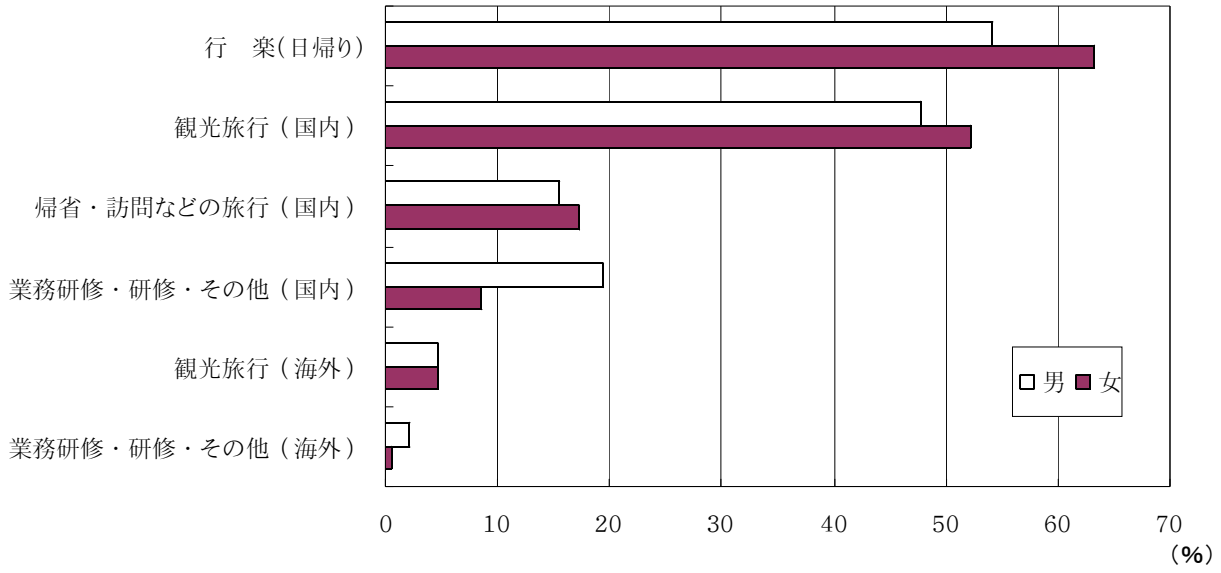
なお、行動者率について全国順位をみると、25位となっている。

(2)　行動者率は「観光旅行（国内）」が50.0%、「観光旅行（海外）」は4.7%

「旅行・行楽」の行動者率をその種類別にみると、「行楽（日帰り）」が58.8%（行動者数126万9千人）、観光旅行では国内が50.0%（108万1千人）、海外が4.7%（10万1千人）となっている。これを男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。

なお、種類別の行動者率について全国順位をみると、「国内観光旅行」は14位、「海外観光旅行」は37位となっている。

男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率



Ⅱ　生活時間に関する結果

１　１日の生活時間の配分

(1)　他県に比べて１次活動時間、３次活動時間は長く、２次活動時間は短い

新潟県の10歳以上の人について、１日の生活時間（週全体平均。以下「週全体」という。）をみると、１次活動（睡眠、食事など生理的に必要な活動）時間が10時間44分、２次活動（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）時間が6時間48分、３次活動（１次活動、２次活動以外で各人が自由に使える時間における活動）時間が6時間29分となっている。

男女別にみると、１次活動時間は、ほぼ同じ長さになっているが、２次活動時間は女性が21分長くなっており、３次活動時間は男性が22分長くなっている。

平成13年と比べると、１次活動時間は4分の増加、２次活動時間は8分の増加、３次活動時間は12分の減少となっている。

なお、全国平均と比較すると、１次活動時間は7分、３次活動時間は6分長くなっているが、２次活動時間は12分短くなっている。

(2)　１次活動時間、２次活動時間、３次活動時間の男女差は縮小

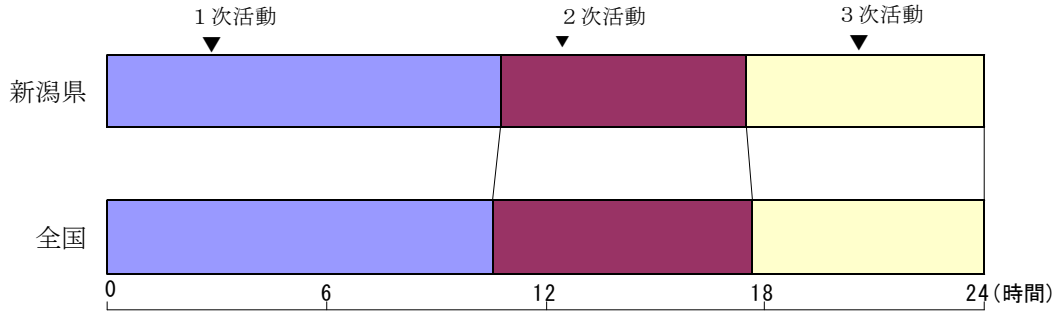
生活時間の男女差を平成13年と比べると、１次活動時間は13分差が1分差に、2次活動時間は、22分差が21分差に、３次活動時間は35分差が22分差になっており、すべての活動で差が縮小している。

男女、行動の種類別生活時間（10歳以上）－週全体

（時間．分）

		総数			男			女		
		平成13年	平成18年	増減	平成13年	平成18年	増減	平成13年	平成18年	増減
新潟県	１次活動	10.40	10.44	0.04	10.33	10.43	0.10	10.46	10.44	-0.02
	２次活動	6.40	6.48	0.08	6.28	6.37	0.09	6.50	6.58	0.08
	３次活動	6.41	6.29	-0.12	6.59	6.40	-0.19	6.24	6.18	-0.06
全国	１次活動	10.36	10.37	0.01	10.30	10.31	0.01	10.42	10.42	0.00
	２次活動	6.56	7.00	0.04	6.51	6.58	0.07	7.01	7.03	0.02
	３次活動	6.28	6.23	-0.05	6.39	6.31	-0.08	6.17	6.15	-0.02

１日の生活時間の配分（10歳以上）－週全体平均



2　１次活動

(1)　睡眠

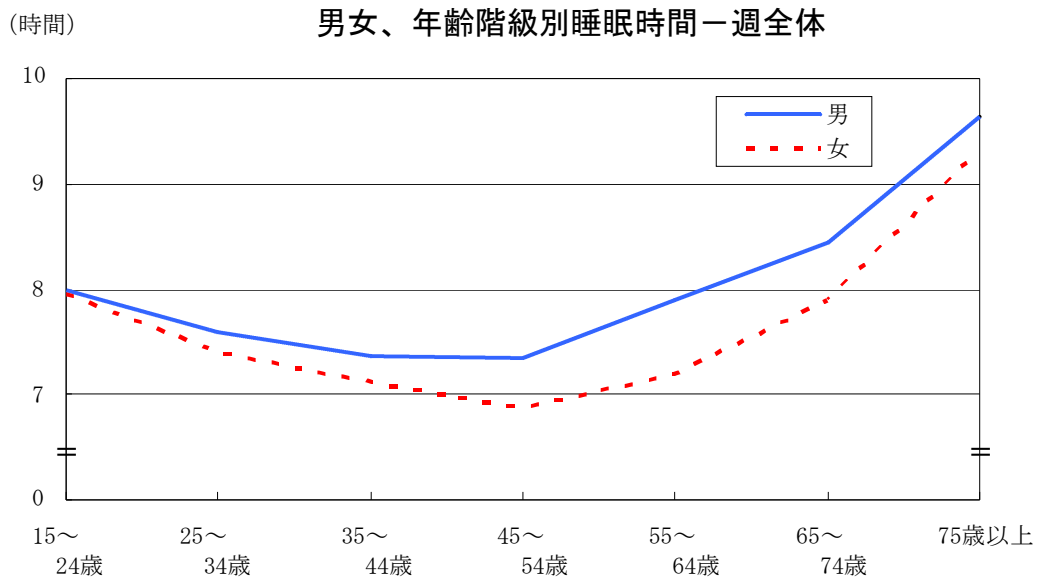
①　睡眠時間は減少

10歳以上の人の睡眠時間（週全体）は7時間51分で、男性が7時間59分、女性が7時間44分と、男性が女性より15分長くなっている。男女別に平成13年と比較すると、男性は2分、女性は5分それぞれ減少している。

全国と比較すると、男性は10分、女性は9分、それぞれ全国より長くなっている。

②　「45歳～54歳」で最も短い睡眠時間

15歳以上の人について、年齢階級別に睡眠時間（週全体）をみると、「45歳～54歳」が男性が7時間21分、女性が6時間52分と最も短くなっている。また、女性の睡眠時間は各年齢階級で男性より短くなっており、特に「55歳～64歳」では、42分短くなっている。



3　２次活動

(1) 仕事

①　男女とも仕事時間はやや増加

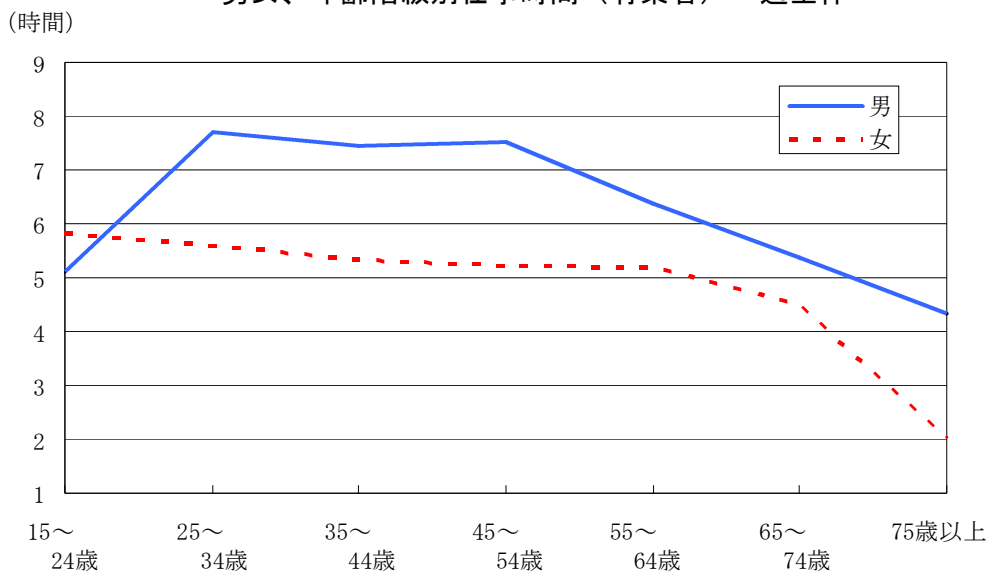
有業者（15歳以上。以下同じ。）の１日の仕事時間（週全体）は6時間7分で、男性は6時間50分、女性は5時間14分となっている。男女別に平成13年と比較すると、男性は3分の増加、女性は4分の増加となっている。

全国と比較すると、男性は全国より10分短く、女性は全国より14分長くなっている。

② 男性は「25～34歳」、女性は「15～24歳」で最も長い仕事時間

有業者の仕事時間（週全体）を年齢階級別にみると、男性は「25～34歳」が7時間42分と最も長く、次いで、「45～54歳」が7時間31分、「35～44歳」が7時間27分などとなっている。女性は「15歳～24歳」が5時間49分と最も長く、次いで、「25～34歳」が5時間36分、「35～44歳」が5時間21分などとなっている。

男女、年齢階級別仕事時間（有業者）－週全体



(2) 家事関連

① 依然として男女の差が大きい家事関連時間

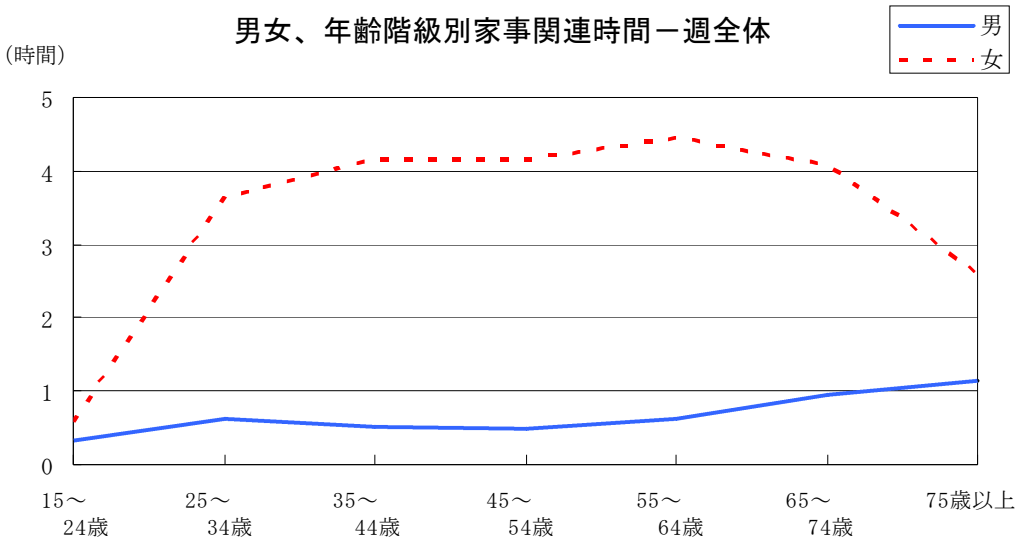
10歳以上の人の家事関連時間（「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計時間）（週全体）は2時間1分で、男性が37分、女性が3時間19分と男女の間に大きな差がある。

男女別に平成13年と比較すると、男性は4分の増加、女性は4分の減少となっている。男女間の較差は2時間50分から2時間42分へと、8分縮小している。

全国と比較すると、男性は1分、女性は16分それぞれ全国より短くなっている。

② 家事関連時間は「55～64歳」の女性が最も長い

15歳以上の人について家事関連時間（週全体）を年齢階級別にみると、男性は「75歳以上」が1時間8分と最も長く、次いで、「65～74歳」が57分などとなっている。一方、女性は「35～44歳」、「45～54歳」、「55～64歳」及び「65～74歳」の年齢階級で４時間を超えており、「55～64歳」が4時間28分と最も長くなっている。



４　３次活動

(1)　休養等自由時間活動

①　休養等自由時間活動の時間は男女ともほぼ同じ

10歳以上の人の休養等自由時間活動の時間（「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」の合計時間）（週全体）は4時間5分となっている。これを男女別にみると、男性は4時間5分、女性は4時間6分で、ほぼ同じ長さになっている。

平成13年と比較すると、男性は5分の減少、女性は9分の増加となっている。

全国と比較すると、男性は14分、女性は19分、それぞれ全国より長くなっている。

②　他県に比べて長い「休養・くつろぎ」の時間

休養等自由時間活動を項目別にみると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」に費やす時間は2時間29分、「休養・くつろぎ」に費やす時間は1時間36分となっている。特に「休養・くつろぎ」に費やす時間は、全国と比較して11分長く、鹿児島県と並んで全国で最も長くなっている。

休養等自由時間活動の時間－週全体

(時間.分)

		総　数	男	女
新潟県	休養等自由時間活動	4.05	4.05	4.06
	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.29	2.30	2.28
	休養・くつろぎ	1.36	1.35	1.38
全国	休養等自由時間活動	3.52	3.57	3.47
	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.24	2.28	2.21
	休養・くつろぎ	1.25	1.23	1.26

(2)　積極的自由時間活動

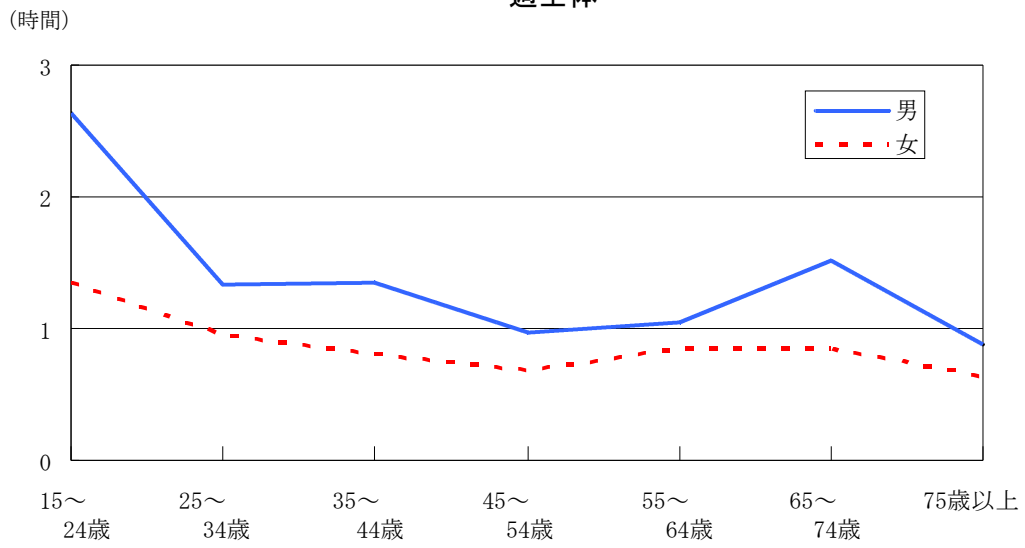
①　「趣味・娯楽」の時間が増加

10歳以上の人の積極的自由時間活動の時間（「学習・研究（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間）（週全体）は1時間11分で、このうち「趣味・娯楽」に費やす時間が43分と最も長く、次いで「学習・研究」と「スポーツ」が12分となっている。男女別にみると、男性は1時間26分、女性は56分で、男性が女性より30分長くなっている。

平成13年と比較すると、男性は1分の減少、女性は1分増加となっている。

全国と比較すると、男性は2分短く、女性は10分それぞれ全国より短くなっている。

②　男女とも「15～24歳」で最も長い積極的自由時間活動の時間

15歳以上の人について積極的自由時間活動の時間（週全体）を年齢階級別にみると、男性は「15～24歳」が2時間38分で最も長く、「75歳以上」が53分で最も短くなっている。女性は「15～24歳」が1時間21分と最も長く、「75歳以上」が38分と最も短くなっている。また、女性の積極的自由時間活動の時間は、すべての年齢階級で男性より短くなっており、特に「15～24歳」では1時間17分短くなっている。

男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間
－週全体